



「朝霧の光堂」(宝珠院観音堂)

平成 30
年度版
2018

知りたい!

ひと

まち

自然

印西の環境



平成 30 年度版 印西市環境白書 概要版

千葉県
印西市



「染まる秋」(木下万葉公園)

温室効果ガスの削減

我が国は「2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比26%削減すること」を世界に約束し、地球温暖化対策計画を2016年5月に策定しました。

同計画は中期目標を達成するために、各主体が取り組むべき対策や国の施策を明らかにすることで、削減目標達成への道筋を付けるとともに、長期的目標として2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指すことを位置付けており、我が国が地球温暖化対策を進めていく上での礎となるものです。

特に、温室効果ガス排出量の9割を占めるエネルギー起源二酸化炭素の排出量については、2013年度比で25%削減することを目標としています。その削減内訳としては、産業部門7%、業務部門40%、家庭部門39%、運輸部門28%、転換部門28%とし、他に中間目標を達成するため自治体や国民など各立場の基本的役割を明確にするとともに、具体的な対策・施策を示しています。

地球温暖化対策推進の基本的方向とは

- 中期目標（2030年度までに2013年度比26%減）の達成に向けた取組
- 長期的な目標（2050年までに2010年比80%減を目指す）を見据えた戦略的取組
- 世界の温室効果ガスの削減に向けた取組

印西市における温室効果ガス排出量の削減状況

印西市では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく「印西市市内エコプラン」を第1次～第4次まで策定し推進することで、市の事務事業からの温室効果ガス排出量の削減に努めています。現在までの削減目標の達成状況は、2010年に印西市、印旛村、本埜村が合併したことにより対象施設が増加したため、第2次では達成できませんでしたが、第1次と第3次では達成しました。なお、第4次は実施中のため実績値はありません。

市内エコプラン	基準年(年度)	期間(年度)	削減目標(基準年度比)	実績(基準年度比)	評価
第1次	2001	2003～2007	▲ 6.0%	▲ 6.5%	○
第2次	2006	2008～2012	▲ 6.0%	+62.9%	×
第3次	2010	2013～2017	▲ 5.0%	▲ 7.7%	○
第4次	2013	2018～2022	▲12.0%	—	—

○：削減目標達成、×：削減目標未達成、—：実績値なし

温室効果ガス削減に取り組もう！

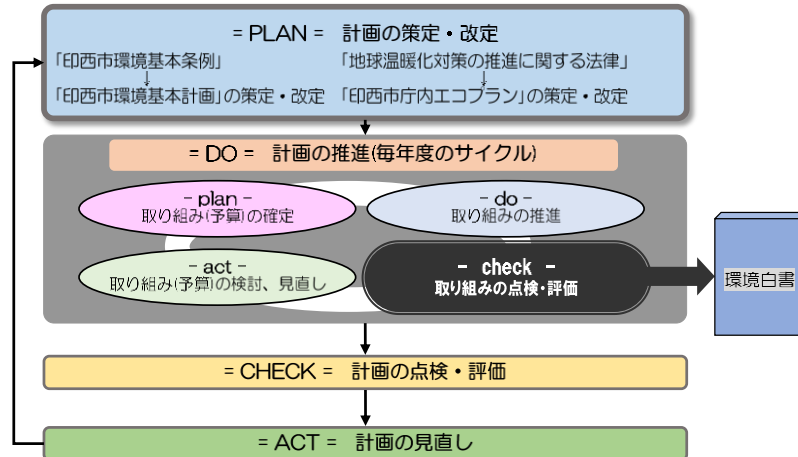
- 地球温暖化防止活動への参加
 - ・ 地球温暖化防止の国民運動（COOL CHOICE）
 - ・ 3R推進の国民運動
 - ・ 森林づくりや都市緑化などの緑化運動 など
- 日常生活に起因する温室効果ガスの排出の抑制
 - ・ 自らのエネルギー消費量等を把握
 - ・ 低炭素住宅・建築物の選択
 - ・ 省エネルギー機器への買換え等
 - ・ 次世代自動車の活用 など

温室効果ガス削減について詳しく知りたい人は…

環境省 地球温暖化対策 <http://www.env.go.jp/seisaku/list/ondanka.html>
 全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org>

位置づけ

印西市環境白書は、環境基本計画と市内エコプランの年度ごとの取り組み状況や目標の達成状況の報告書として、市民の皆様公表するものです。また、各種の測定データなどの市の環境に関する情報をとりまとめたデータ集として、広く周知するものです。



印西市が目指す「将来環境像」と、達成のための「5つの基本目標」

将来環境像

「ひと まち 自然」が調和し
豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい

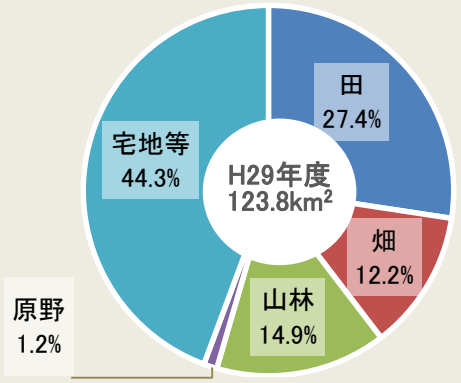
基本目標 1 【自然環境】	緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して	・・・2 ページ
基本目標 2 【生活環境】	安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して	・・・4 ページ
基本目標 3 【都市環境】	都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して	・・・6 ページ
基本目標 4 【地球環境】	低炭素社会の構築に向けた地球環境に負荷を与えないまちを目指して	・・・8 ページ
基本目標 5 【人づくり】	環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して	・・・10 ページ

緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

土地利用の状況

● 田、畑、山林、原野の割合

55.7%



伊西市は農地や樹林地が多く、里山の緑に恵まれています。しかし、宅地開発や農家の後継者不足による緑の減少が心配されています。

農地の保全

農業は伊西市の主要産業であり、季節ごとの田園風景は市を代表する景観を形作っています。

伊西市の農産物を市内で消費する**地産地消**を推進するため、昨年と同様に市内保育園の児童を対象に食育体験を実施したほか、平成 29 年度は、いんざい君をデザインした販売用手提げ袋と伊西市と印字した販売用箱の補助を行うなど、「伊西市産」農産物の PR と消費拡大に努めました。



▲ いんざい君をデザインした販売用手提げ袋

伊西市の生きもの

市内には、**植物 915 種、動物 838 種**が確認されています。中には、絶滅が危惧されている重要な種も見つかっています。



● 生きものの確認種数

分類群		確認種数 (重要種)	
植物		915	(48)
動物	哺乳類	9	(2)
	鳥類	95	(44)
	爬虫類	12	(10)
	両生類	6	(4)
	昆虫類	692	(45)
	魚類	24	(10)

平成 27 年度自然環境調査

< 外来生物と有害鳥獣の違いは？ >

外来生物とは、本来はその地域にいなかったのに、人間の活動によって意図的・非意図的に持ち込まれた生物のことです。一方、有害鳥獣とは、農林水産物等に被害を与える場合や生活環境等を悪化させる野生鳥獣のことです。そのため、有害鳥獣には外来生物だけでなく、在来生物も含まれます。

代表的な外来生物または有害鳥獣

- アライグマ
- ハクビシン
- イノシシ

印西市の里山

市内には人と自然との長年の関わり合いによって形成されてきた里山が多く残されています。

この里山は樹林地、田畑、草地、水辺などいろいろな環境が混ざりあって、豊かな生態系を育む場としても注目されています。



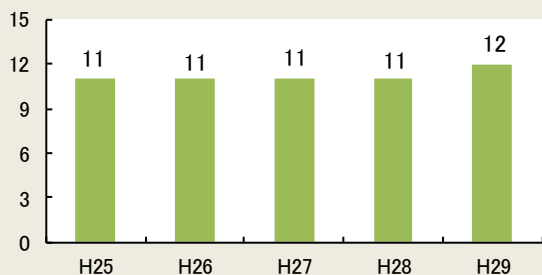
◀ 結縁寺の里山風景

市では、市民参加による里山保全活動の充実を図るため、市民活動団体が実施する里山関連の行事を支援しています。

平成 29 年度の市内の里山保全活動団体数は 12 団体、里山関連イベントの開催数は 8 回でした。

● 里山保全活動団体数の推移

(団体)



◀ 草深の森

自然とのふれあい

「いんざい自然探訪」は、子どもから大人まで楽しみながら環境を学ぶことができる自然観察会です。平成 29 年度は印旛沼や里山などで5回開催し、延べ97人にご参加いただきました。



▲ いんざい自然探訪
印旛沼でカミツキガメを見よう

印西市は湖沼やその支流などたくさんの水辺に恵まれたまちです。

市では、水辺とのふれあいの機会を提供するため、県や流域市町と協力して水辺環境保全のためのイベントや河川の清掃活動を開催しています。印旛沼では「印旛沼流域環境・体験フェア」を実施しているほか、手賀沼では手賀沼流域フォーラム等のイベントや、市民参加による湧水調査及び水質・水生生物調査を実施し、市民の皆さんとともに良好な水辺環境の維持に努めています。



▲ 手賀沼流域である亀成川の湧水調査

アクション!

緑や水辺を守り、自然と共生するために…

- “百聞は一見にしかず” 近くの里山や水辺に親しみます。
- 自然にやさしい有機栽培や、低農薬の農産物及び地産地消の商品を購入します。
- 生きものたちが生息している里山や生態系を知り、それらを残します。
- 家庭で飼っているペット等の生き物は最後まで面倒をみます。

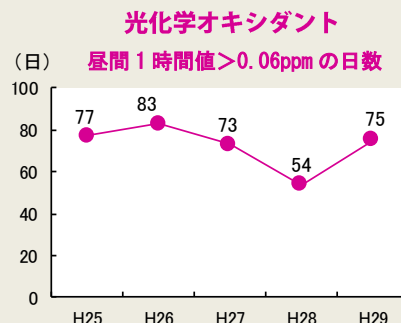
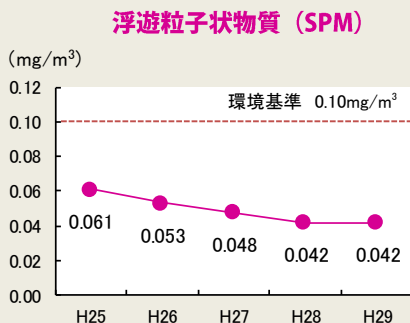
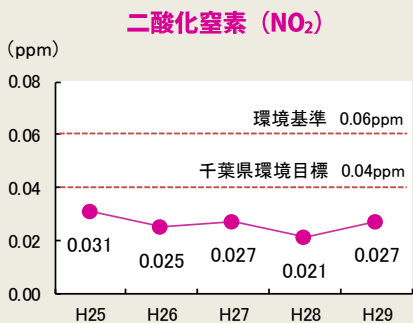


安心・安全に暮らせる、 環境に負荷を与えないまちを目指して

大気環境の保全

● 大気汚染物質濃度（高花測定局）

光化学オキシダント
環境基準超過日数 **75** 日



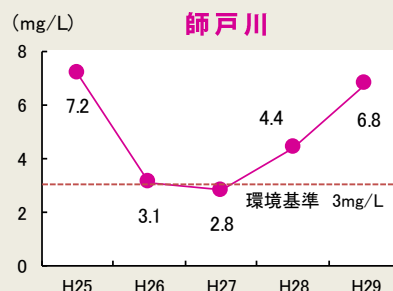
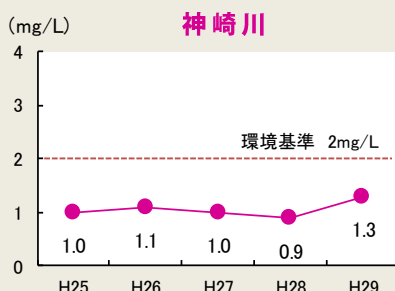
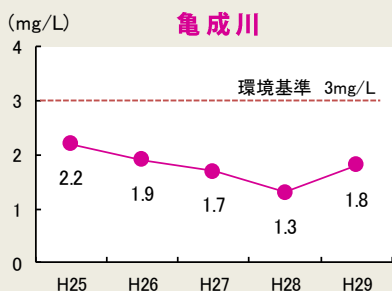
千葉県が設置する一般環境大気測定局（高花地区）では、大気質の測定を実施しています。二酸化窒素（NO₂）や浮遊粒子状物質（SPM）は環境基準を達成している一方、**光化学オキシダント**は環境基準を達成していません。

市では大気環境を改善するため、環境にやさしい運転「エコドライブ」の普及を推進しています。

水環境の保全

● 河川のBOD濃度

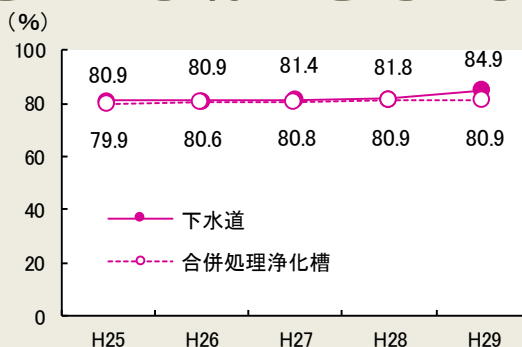
師戸川で環境基準を超過



市では、市内 9 河川で年 4 回の水質測定を行っています。環境基準が設定されている 3 河川の BOD 濃度は、亀成川、神崎川では例年通り環境基準を達成しています。一方、師戸川は平成 27 年度に環境基準を達成しましたが、その後は周辺環境の影響などにより、再び環境基準を超過しています。河川の水質を改善するために、公共下水道の整備や整備済み地区の水洗化、合併処理浄化槽の設置補助に取り組んでおり、その普及率は上昇しています。下水道普及率は初めて目標を達成しました。

● 下水道普及率 ● 合併処理浄化槽普及率

84.9% **80.9%**

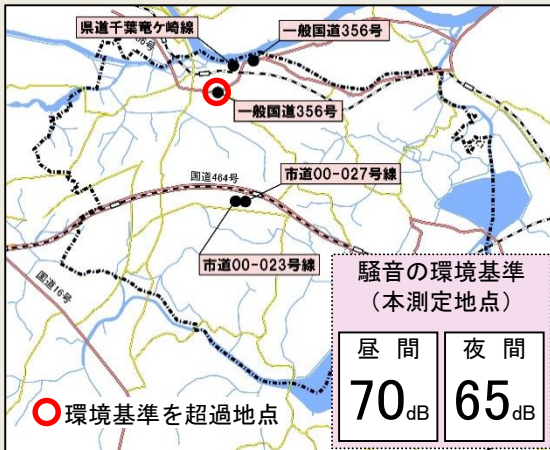


騒音・振動を防ぐ

市では、主要幹線道路において定期的に道路交通騒音の調査を実施しています。

平成 29 年度の道路交通騒音の面的評価は国道 356 号、県道千葉竜ヶ崎線、市道 00-023 号線、市道 00-027 号線を対象として実施しました。その結果、国道 356 号の南側地点において夜間で環境基準を超過しましたが、他の地点は環境基準を達成しました。

● 道路交通騒音の測定地点



1 地点で環境基準値
を超えちゃったよ↘



印西市環境キャラクター
エコネ

定期的に空間線量率
を測定しています ▶



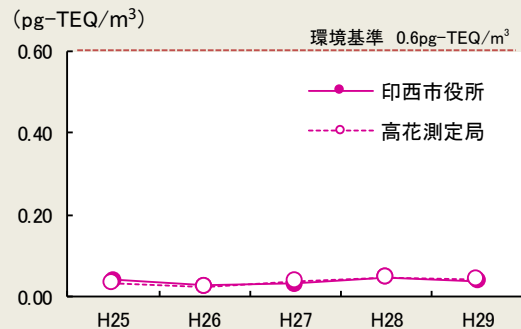
有害物質のリスク

身のまわりにどんな化学物質があるのか、またどんなリスクがあるのかを知ることは化学物質を上手に利用するために必要な知識です。例えば、殺虫剤や洗剤などは用法・用量に注意しないと、知らぬ間に体の中に有害物質を取り込んでしまう危険性があります。

市では、大気中のダイオキシン類濃度を定期的に調査しており、平成 29 年度はいずれも環境基準を達成しました。

● 大気中のダイオキシン類濃度

環境基準達成



放射性物質対策

放射性物質による環境汚染に対しては、国や県など関係機関と連携しながら除染等の対策を進めてきました。

市民が安心して生活できる環境づくりのため、市では市内 174 箇所の公共施設等で空間線量率の測定を行い、結果を広報やホームページ等で公表しています。なお、平成 29 年度は、国が示す基準値 0.23 μ Sv/h を超える箇所はありませんでした。

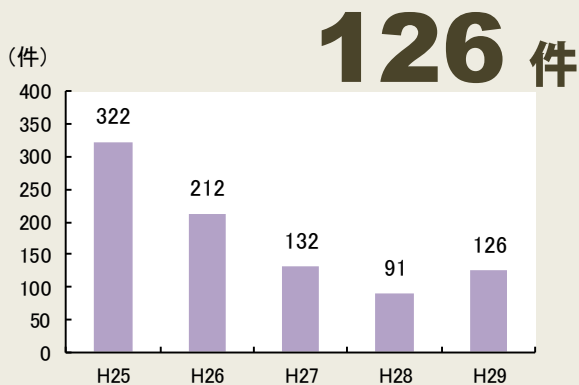
アクション!

環境に負荷を与えず、安心・安全に暮らすために…

- 低公害車を購入・使用するよう努め、環境にやさしい運転(エコドライブ)の実践に努めます。
- 節水を心がけるとともに、食器等を洗う際には、油分や汚れをふき取り、汚水を出さないように努めます。
- 放射線に関する正しい知識を得て、行動します。

不法投棄の状況

● 不法投棄発生件数



平成 29 年度に市が把握した不法投棄発生件数 126 件のうち、51 件は市民からの通報によるものでした。市民の皆さんによる監視の目が**不法投棄の抑止・発見**につながっています。

126 件の内訳をみると、家電製品が最も多く (36 件)、家庭ごみなども多くなっています。

市では、パトロールの実施や監視カメラの設置 (平成 29 年度は 10 台増設) により、不法投棄の防止に努めています。

< H29 不法投棄内訳ランキング >

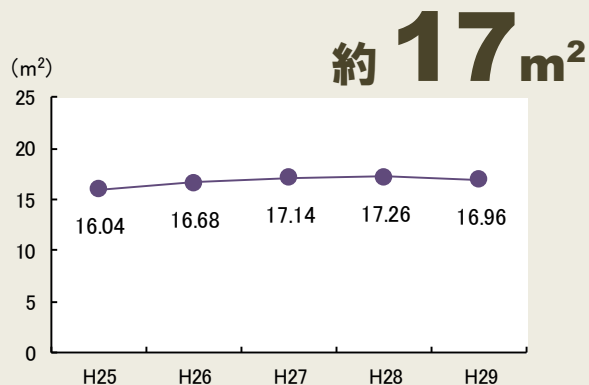
- 1 位 家電製品・・・36 件
- 2 位 家庭ごみ・・・18 件
- 3 位 家具・・・15 件



▲ 監視カメラの設置を強化しています

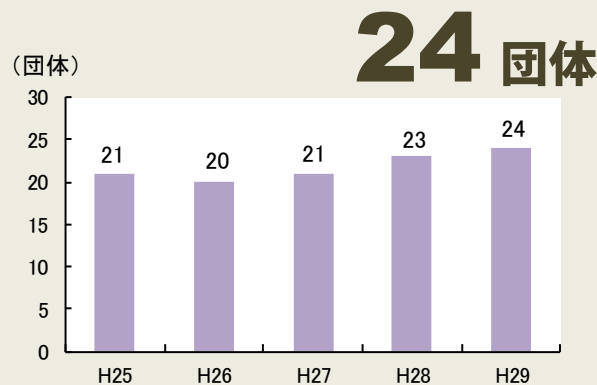
緑あふれるまち

● 1 人当たりの都市公園面積



市内には、総合公園から都市緑地まで 165 箇所の公園があります。市民 1 人当たりの都市公園面積は約 17 m² で、千葉県全体 (約 7m²)、国全体 (約 10m²) を大きく上回っています。

● 公園美化活動協定締結団体数



市では、公園美化活動を行う団体に対して、活動に必要な物品や用具を貸与・支給するなど、各種支援を実施しています。平成 29 年度の美化活動協定締結団体数は 24 団体となりました。

また、市民の皆さんのご家庭での緑化推進を支援するため、市の花であるコスモスの種の配布を行っています。



環境美化活動

市では、環境美化意識の高揚を図るため、市民団体や事業者と協力して「ゴミゼロ運動」、「クリーン印西推進運動」などの活動を実施しています。平成29年度の参加者数は延べ51,863人にのぼり、合計42,420kgのごみが回収されました。

ポイ捨てをなくし、まちを美しく保つためには、一人ひとりが美化意識を向上させることが重要です。市では、重点区域での啓発や、指導員によるパトロールを実施し、禁止行為の指導件数は2,518件、過料件数は1件でした。



▲ 指導員によるパトロールを実施

歴史と文化

市では、市内の遺跡や史跡などの文化財を守るだけでなく、観光事業とも連携して地域の歴史・文化の周知に努めています。市内の指定文化財は、国指定文化財6件、県指定文化財17件（「武西の六座念仏の称念仏踊り」の指定解除に伴い昨年より1件減少）、市指定文化財26件の合計49件で、他に国登録文化財が1件あります。

平成29年度は道作古墳群の見学会や「木下貝層」の貝化石採集観察会などのイベントに約170人が参加したほか、文化財の保護対策として、宝珠院観音堂にて文化財防災訓練を実施しました（参加者40人）。

また、市史への理解や市史編さん事業の状況を伝えるため、市史編さん講演会等を開催し、108人に参加いただきました。



▲ 宝珠院観音堂の文化財防災訓練

< 印西市立印旛歴史民俗資料館ってどんなところ？ >

印西市立印旛歴史民俗資料館は印西市の各種歴史資料の調査研究・収集・保管・活用等の事業を通じて市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するために設置されました。



▲ 印西市立印旛歴史民俗資料館



アクション！

美しく、快適なまちにするために…

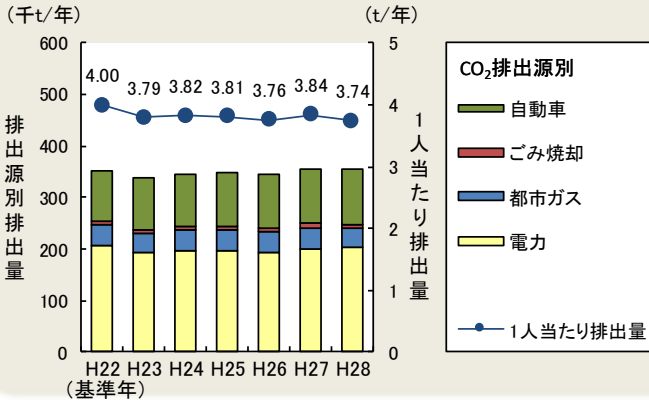
- ごみやたばこのポイ捨ては絶対にせず、ペットの散歩の際にフンなどは必ず持ち帰ります。
- 「ゴミゼロ運動」「クリーン印西推進運動」など地域の清掃活動に積極的に参加します。
- 地域の祭りや伝統行事に積極的に参加します。

低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して

減らそう！CO₂

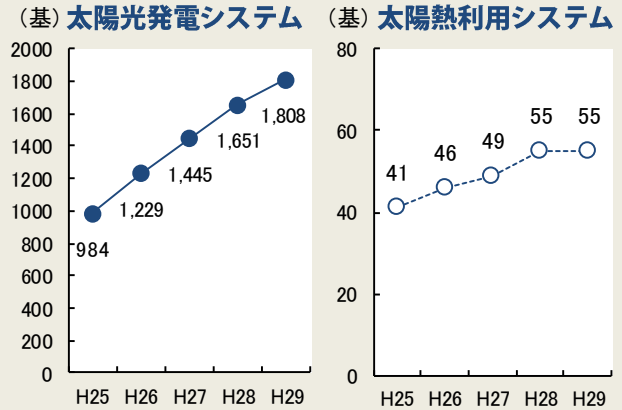
● 年間二酸化炭素（CO₂）排出量

市民 1人当たり **3.74t**



● 再生可能エネルギー設備の補助基数（累計）

1,808 基 **55** 基



平成 28 年度の印西市における二酸化炭素（CO₂）排出量は、354,336t-CO₂で、市民一人あたりの排出量は 3.74t-CO₂となりました。基準となる平成 22 年度と比較すると、わずかに減少しています。

● 補助対象の住宅用省エネルギー設備

設備の種類	概要
太陽光発電システム	太陽の光で発電する設備
太陽熱利用温水器	太陽の熱でお湯を作る設備
家庭用燃料電池システム（エネファーム）	水素と酸素で発電し、同時にお湯を作る設備
定置用リチウムイオン蓄電システム	電気を蓄える設備

※対象となる設備には要件があります。

市では、一般家庭における再生可能エネルギーの利用を促進するため、平成 17 年度から太陽光発電システムや太陽熱利用システムの設置補助を実施しています。平成 29 年度の補助件数は、太陽光発電システム 157 件（累計 1,808 件、出力合計約 8,011kW）、太陽熱利用システム 0 件（累計 55 件）となりました。

また、その他の住宅用省エネ施設等の補助では、家庭用燃料電池システム（エネファーム）173 件、定置用リチウムイオン蓄電池システム 34 件を補助しました。

市の施設では、再生可能エネルギー設備の率先的な導入を推進しており、市役所屋上に太陽光発電システムを設置しています。他に、松山下公園総合体育館に 10kW、大森小学校に 10kW、内野小学校に 20kW、牧の原小学校に 45kW の太陽光発電システムを設置しています。

公用車への低燃費車の導入や「ふれあいバス」の利用促進、グリーンカーテンの設置（53 施設）など、市では率先して省エネルギー化、二酸化炭素削減の取り組みを進めています。



◀ 中央駅前交流館 まつりで環境家計簿を PR

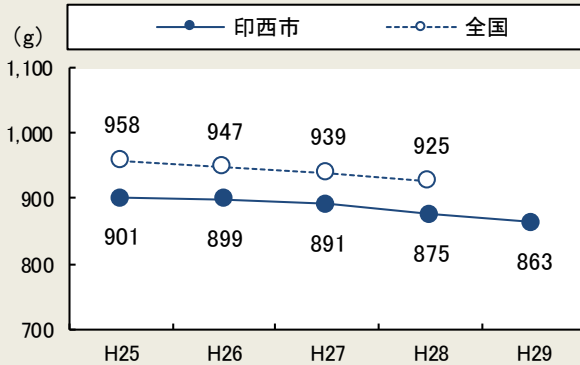


▲ 「ふれあいバス」の利用促進が二酸化炭素排出削減に繋がります

印西市のごみ

● 1人1日当たりのごみ排出量

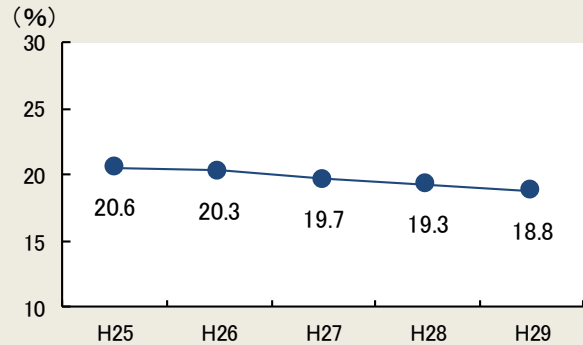
863g



注) 総資源化率については、量販店での回収や民間の廃品回収等は含まれていません。

● ゴミの総資源化率

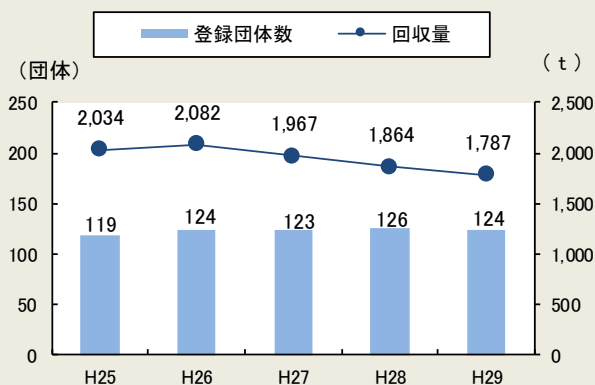
約 19%



平成 29 年度の 1 人 1 日当たりのごみ排出量は 863g となり、前年度の 875g から 12g 減少しました。総資源化率は約 19%で、平成 25 年度以降は緩やかに減少しています。

ごみを減らす取り組み

● 有価物集団回収登録団体数と回収量



▲ 不用になった小型家電の回収を行い、リサイクルに取り組んでいます

ごみの資源化や適正処理も重要ですが、最も優先されるべき取り組みは「ごみを出さないこと」です。市では、広報紙やホームページを通じて、ごみの減量意識や適正排出に関する情報発信を行っているほか、「ごみ・リサイクル施設等見学会」、「いんざい環境フェスタ」などの事業を実施しました。また、平成 29 年度は町内会を対象とした出前講座を 20 回開催し、参加者数は延べ 564 人にのびりました。

また、資源として再利用できる有価物を集団で回収している町内会や子ども会、高齢者クラブなどの団体に対する支援を実施しています。平成 29 年度の有価物集団回収の登録団体数は 124 団体、回収量は 1,787t となりました。ただし、団体数、回収量は前年に比べると共に減少傾向にあります。

アクション!

地球環境を守るために...

- 「環境家計簿」などを通して電気ガス、水道、ガソリンなどの省エネルギーに努めます。
- 外出の際には徒歩や自転車、公共交通機関を利用するよう努めます。
- 不用な商品を購入しないように努め、商品をできる限り長く使用します。

学習機会の充実



◀ 市民アカデミーで環境政策を学ぶ講座を開催

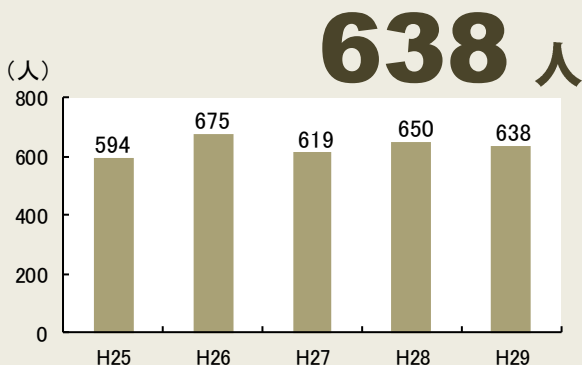
小林図書館ではリサイクルをテーマとした本の展示 ▶



環境問題解決の第一歩は、一人ひとりが環境について学ぶことです。市では、教育センターや公民館などで里山観察会や自然散策、各種講座などを開催し、多くのご参加をいただきました。

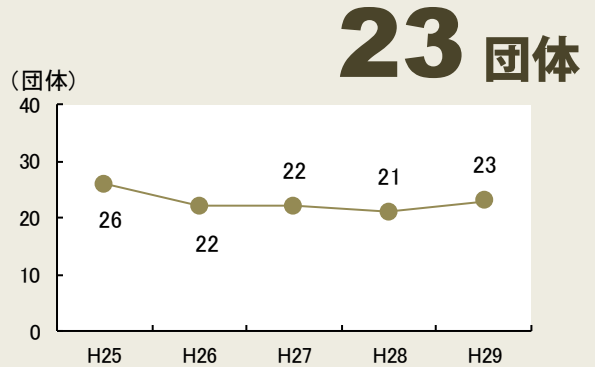
将来の印西市を担う子供達への環境教育の推進を図るため、小中学校の図書室のうち 17 校が、環境コーナーを特設しました。平成 29 年度の学校支援ボランティア制度の登録数は 638 人となりました。

● 学校支援ボランティアリスト登録数



行動してみよう！

● 環境活動団体数



市内で活動している環境活動団体数は平成 28 年度より 2 団体増加し 23 団体となりましたが、依然として、団体構成員の高齢化に伴い、団体を維持することが困難な状況は続いています。

もっと！知りたい人は

「平成 30 年度版 印西市環境白書 本編」
「印西市環境基本計画」
をご覧ください。

行動してみたい人は

「印西市環境行動指針」
日常生活の中の環境配慮行動を掲載しています。
「広報いんざい」
環境に関するイベントや講座開催をお知らせ。

発行：印西市
編集：環境経済部 環境保全課
〒270-1396 千葉県印西市大森 2364-2
TEL：0476-33-4491
<http://www.city.inzai.lg.jp/>
トップ → 暮らしの情報 → ごみ・環境・ペット

アクション！

みんなで環境を育てるために…

- 環境に関するイベント、施設見学等に積極的に参加し、環境の現状を理解し学びます。
- 環境に関して得た情報を家庭や子どもたちと話し合い、実践につなげます。